

令和7年度障がい学生支援のための研修会 事後アンケート

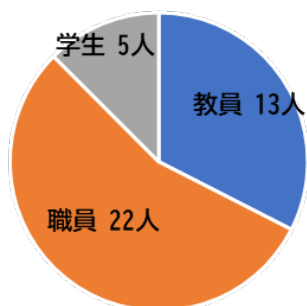
日 時 令和8年3月13日(金) 14時30分～17時00分
場 所 学習交流プラザ学習交流ホール

参加人数および事後アンケート回答者数

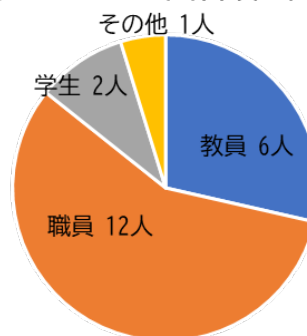
所属	参加者数	事後アンケート回答者数
教員	13	6
職員	22	12
学生	5	2
その他		1
合計	40	21

事後アンケート回収率：52.5%

参加者 (40名)

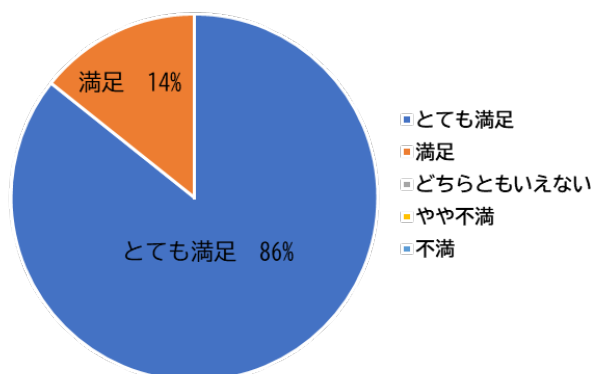


事後アンケート回答者 (21名)



〈卒業生・在学生体験発表の満足度〉

・体験発表では、「とても満足」が86%、「満足」が14%と、非常に高い満足度が示された。学生の生の声を聞くことで、支援を受けた学生の実験の経験や、抱えていた不安・困難、その乗り越え方などを具体的に知ることができたという意見が多かった。また、支援が学生生活にどのように影響するかを実例を通して理解でき、支援の重要性を改めて実感したという声が多く寄せられた。



学生の生の声を聞くことができ大変参考となりました

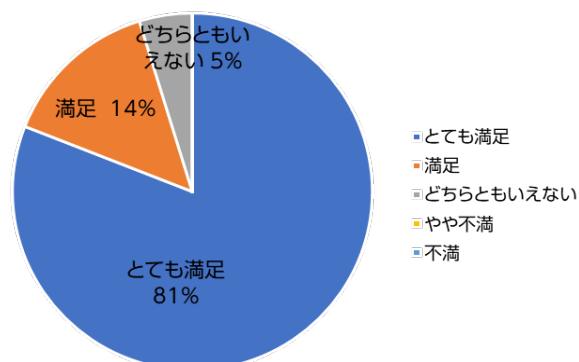
小田君の現在の頑張りを知ることができて尊敬するとともにとてもうれしかったです。学部1年生時の実験科目を担当。当時どうやったら実験を楽しんでもらえるのか、どんなフォローができるのか手探りのまま終わってしまったので、もっと要望を聞いてあげられたら良かったなと思っていました。

生の声を聞ける機会がとても貴重だった。事務職でこういった研修会はあまりないので、定期的で開催されるととても勉強になると感じた。窓口対応にとっても生かされる内容だった。
今まで障害学生支援センター関連の研修会に参加したことはあったが、実際の学生の方の意見を初めて伺った。支援があることで学生の方の大学生活が大きく変わると感じた。また稲荷田さんの発表で苦手なことも楽しもうと思うことで楽しめたり、うまく行ったりすることは自分もまねしていこうと思った。
実態の理解に役立った。
実際に支援を受けていらっしゃる学生の皆さんの生の声を聴くことができ、これからの支援への励みになると感じました。
支援セッターで学生たちが安心して過ごせたり、支援を受けることができたとわかり、とても勉強になりました。
学生さんの生の声が聞けたので。
学生さんにとっての居場所の大切さを感じました。悩みを相談し支援してもらい、平等に学ぶ権利が守られたことで自信を持たれ、このような場で発表する勇氣も出られたのではと感じました。
実際に体験した学生さんからの話はとても勉強になるものでした。支援する立場からはわからないことも知ることができたように感じます。
卒業生や在学生の話を聞きつつ、修学支援室がどのようなことをしてきたかを知ることができたため。複数の事例から支援室を利用している自身にとって、この場はどのようにしてできたか、そこにはどのような思いが込められているのか、それを知ることができた。この学びは私の今後の3年間に密接にかかわる大きな財産になると強く感じた。
卒業生・学生の話から社会的障壁を感じている学生の現状について、またどのような支援が必要なのかについて理解することができました。
支援を受ける学生の意見は大変貴重で勉強になりました。
みんなの今までの苦しみと支援を受けることでの希望を感じるすることができたからです。
支援を受ける学生の体験を知ること、あるべき支援を考えることができたため。
学生のリアルな声を聞き、センターの存在意義の大きさを再確認できた。
センターを利用する学生のポテンシャル、努力、意欲を参加された皆さんに示すことができた事が素晴らしいと思います。利用する学生は、サービスを受ける人ではなく自身の学びの為に必要な支援を選び利用することで、自分を成長させている人たちだと改めて感じました。
学生さんの体験発表に感動しました。
学生の話を通じて直接伺うことができ、学生目線の意見を知ることができました。
学生の体験を聞くことができた。学生がどのように悩み、どうそれを解決していくかを教えて頂けた。

〈講演の満足度〉

・「とても満足」81%、「満足」14%と満足度の高い結果だった。

障害学生支援の背景や10年間の取り組みの経過、支援内容の実際、関係部署との連携の重要性について具体的に理解が深まったとの意見が多かった。また、障害のある学生本人や支援担当者の思いを知ること、支援に向き合う姿勢や今後の関わり方のヒントを得られたという声が多く、大学として果たすべき役割を再確認する機会になったとの意見がみられた。



「障害」について改めて考えるいい機会になりました。
障害学生支援センターがどういった活動をしているのかよく分かった。全学にどんどん活動が広がっていくとさらに良い大学になると思った。こんなにも幅広く多くのことをされているとは知りませんでした。大変感謝です。
なぜ障害学生支援センターができたのか、法律や経緯が良く分かった。合理的配慮は”平等”という風にとらえていたが、公平性を保つことが重要だと感じた。また合理的配慮ができるよう建設的対話が必要だと感じた。
大学における障害の捉え方や対応について理解が深まった。
学内での支援だけでなく、卒業後の就職への支援に向けた機関との連携を進めていくことの大切さを実感いたしました。学生の皆さんの自己理解をお手伝いできればと思います。
修学支援室の今までの活動などを学ぶことができありがたかったです。
10年の歴史を詳しく知れたため。
修学支援室立ち上げからかかわっていらっしゃる前田先生のご講演だったのでとても分かりやすく丁寧にご教授いただき理解が深まりました。
障害学生支援センターの歩みの実践の中で苦労されたこと等詳しくお話ししていただき分かりやすかったです。10年かけて様々なシステム作りはとても勉強になりました。
前田先生が修学支援室とともに歩んでこられた10年余りのお話をお聞きして、大学の教員としてどうあるべきか、どのような態度で向き合うべきかということを確認できました。貴重なご講演ありがとうございました。
学生支援について大変勉強になりました。
鹿児島大学における障害学生支援のあゆみをよく理解することができた。前田先生の理念、思いを知り、今後もつなげて発展させていくべきだと感じた。
障害学生支援センターのこれまでの尽力と過程を知ることができました。
センターの設置からセンターとして発展してきた様子、今後大切にすべきことが良く分かりました。
支援室設立の流れや支援室存在の重要性が再認識できました
これまでの障害学生支援センターの歩みと前田先生の障害学生支援への思いを知ることができました。
センターの歩みや障害のことについて理解でした。

〈障害を有する学生や修学支援が必要な学生とのかかわりで困った経験〉

障害のある学生や支援が必要な学生とかかわる中で、対応や助言に迷うことがあり、合理的配慮への理解不足や意思疎通の難しさ、支援につながりにくいケース、担当範囲の曖昧さ、連絡が取れないことなど、関わり方に困る場面が多いという意見が寄せられた。

学生から相談にのってほしいということで面接をする機会があるが、どういった傾聴をすればよいか、良いアドバイスをすればよいかなどに悩むことが多い。今回のような研修会で多くのことを学べれば非常に助かると思う。
学生がかたくななあいや、教員が「合理的配慮」について正しく理解していない場合、コミュニケーションや議論が成り立たないから困ると思います。
障害があると思われても、本人に気づきがない方、逆に自分はこうなんだから仕方ないとする意味開き直っている。合理的配慮以上のものを求める方へどのようにかかわっていけばいいのか悩みます。
障害や特性はそれぞれ違うため、その都度どのように伝え、支援したらいいのか悩み試行錯誤しています。
どのように伝えれば私自身の意図がわかりやすく伝えられるかについて悩んだ経験があります。
修学支援室につなげたほうが良いのではと思うケースでも、自分の担任学生でない場合は難しい。その学生の担任がそのように考えていない場合などは意見が言いづらい。
連絡をしても取れない学生への対応が困ったことがある。

〈感想や意見、今後取り上げてほしいテーマ〉

学生と教職員とが対話できる機会があると嬉しい。(こういったところでつまづいているかなど気楽にコミュニケーションできる場)

留学生への障害学生支援時のポイントなどを学べる機会があるとありがたいと思いました。

学生支援をする立場にある者にとって、とても分かりやすいお話でした。ありがとうございました。

講演の中で「障害についての自己理解をすすめる(促す?)」というお話がありましたが、障害特性を待つ学生が診断というプロセスを経なくても、自分の直面している社会的障壁についての理解を促すような関わりについて、テーマとして取り上げていただきたいです。

今回は貴重な機会をいただけて大変嬉しく思います。

今回のような研修会がまた聞けたらを思います。